

川まで舟で帰っています。  
2006年から4年間、ふる  
さと山形を勝手連的に元気にし  
ようと「最上川・街道・三賢者  
(義経、芭蕉、イザベラ・バー  
ド)」をキーワードに3賢者の  
県内ルート約600キロを山形新  
聞社の同行取材を得ながら踏査  
・検証し、09年から10年にかけ

## 提言

1月下旬、同僚を伴い厳冬期の「最上川舟下り」雪見舟を楽しんできました。グリーンシーズンは何度か体験していますが冬は初めてです。明治維新の魁（さきがけ）と言われた清河八郎も25歳のとき、母の亀代を伴い、伊勢参りなど約3ヶ月の旅の終わりに本荘海から生家の清

NPO法人「元気・まちネット」代表

矢口 正武



# 観光に地域資源生かそう

ては清河八郎が江戸へ出奔した  
ルートを「回天の道」と名付け、  
約180キロを踏査・検証しまし  
た。ませんが、郷土史家の方々のお  
力添えで寒河江の橋本屋と上山  
の中村屋に泊まつたことも分か  
りました。橋本屋には自由民権

挙げています。農業、環境、新エネルギーは長期的戦略が伴いますが、観光はすぐにでも始められます。住むまちの地域資源を掘り起こし、再構築して発信

ちは歩くこと（健康）、自然を愛（め）ること（環境）、そして眠（にぎ）わいを創ること（観光）の3つのKを今年のキーワードにふるさと山形を元気

## 広域連携の必要性 実感

出ました。180キロの道のりをわずか3泊しただけです。田麦俣から弓張平までの18キロはアルゴディア研究会の方にガイドを依頼。まだ雪が多く残る街道最大の難所、標高1140㍍の大峠（おおぐき）峠を踏破することができました。

清成忠男地域活性学会会長  
は、これから成長産業として既存の農業、観光に加え、新産業として環境、新エネルギーを

も確立し、観光を基幹産業にします。きっと素晴らしい「山形  
よしと観光立国戦略」が確立できるものと  
のためには地域全体(広域連携)で取り組むことが必要であると  
も語っています。  
この4年間、文学散歩の旅を machinet.com/ 同じ思い  
5回、東京と山形でシンポジウムを抱いていたが、せひ一緒に立  
ムを6回主催する」と、ふるさと上りがりましょう。  
との歴史・文化についてより深く知ることができるました。私は  
(戸沢村出身、東京都渋谷区在住)

賢者がたどつた道を探索する」た。観光庁は「日本ブランド」授がまちネットに所属していることもあり、神原氏のアドバイスを受けながら新しい観光戦略を開拓していくことを考えていく

ハ郎は生家のある清川から山伏峠、羽黒山麓、松根、田麦俣を通り、六十里越街道を越え、弓張平、本道寺、寒河江、山形へ上山かつ酒下宿をつて江戸へ

運動などの会合で米沢藩士の雲川、街道をテー<sup>マ</sup>に庄内最上井龍雄も宿泊しており、歴史を村山、置賜地方に残る約800キの街道を訪ね歩き、広域連携ひも解くと実に面白いことが浮かび上がります。こうしての必要性を強く肌で感じました。提唱する神原理専修大商学部教員がまちネットに所属して、その賢者がたどつた道を深窓する。観光亭は「日本ブランド」が面に展開するまでどれくらいの時間が必要かは不明です。幸いにもソーシャルビジネスを

ませんが、郷土史家の方々のお話が閉塞（へいそく）しに至る活動を展開していきたいため添えて寒河江の橋本屋と上山た地域社会の扉を開く鍵となると考えています。